



すずしろ

～開拓・発展・完成～

4月 第1号

令和7年4月25日

開進第四中学校だより

校長 田邊克宣

『より高く より広く』

昨年度一年間の学校生活において、学習や行事、日々の諸活動に部活動等を通して、開四中生一人一人がそれぞれ、様々な点において「より高く」羽ばたくことができました。

第1回の全校朝礼で話しましたが、今年度は「より高く」に加えて「より広く」を掲げたいと思います。

「広くって、何を？」と疑問に思う生徒諸君。考えてください。機会をみて話しますが、その前に自分の意見を聞かせに来てください。待っています。

さて、寒暖が日々激しく入れ替わった季節が過ぎ、爽やかに吹き渡る風とともに、今年も再び熱中症の心配が頭をもたげてまいりました。運動会に向けての練習も、そろそろ始まります。皆が楽しく、安全に参加できるように、教員もあれこれと算段を整えております。

開四中の歴史を紐解けば、今から64年前、1961年の第1回「体育大会」では校庭に煙幕が焚かれ、視界を遮る真っ白い煙が立ち込める中で騎馬戦が行われている様子が写真に残っています。その後第2回に「運動会」と名称を変えてからも、毎回、騎馬戦や組体操におかて競争といった勇猛果敢な競技が行われ、躍動する選手の姿に、観る方も血沸き肉躍る感動を分かち合ったことでしょう。

月日は流れ、1994年。兵庫県の公立中学校の運動会種目に、おかて競争がありました。

その練習走行中に、転倒が生じ、一番下の生徒に複数の生徒が覆いかぶさるようにのしかかり、その結果、被害生徒が重傷を負うという事故が発生しました。該当生徒は椎間板摘出手術を含む3回の入退院（計約4か月半）を繰り返し、4年間にわたる加療を余儀なくされたということです。

この事故については訴訟が起こされ、2000年の裁判所の判断（一部抜粋）は以下のとおりです。

「本件のような20人近くの集団でもって走る速さを競うおかて競争は、足が揃わず転倒するおそれがあり、転倒に至れば転倒した生徒に他生徒が将棋倒しに倒れかかるなどして、生徒が負傷する危険が容易に予測でき、おかて競争競技の実施自体に危険が伴うものである。」

「該当教諭には、おかて競争の危険性を配慮した練習方法をとるべき注意義務を尽くさなかった過失があるというべきである。」

さらに、教諭側の「他の中学校でも実施されており、危険な種目ではない。」との申立てに対しても、裁判所は「本件のようなおかて競争は危険性

が存する競技であると認められ、危険な競技でないとの認識自体が学校管理者や指導担当教諭の安全配慮不足の起因とはなりえても、該当教諭の過失を否定する論拠とならないことは明らかである。」との見解を示しました。

今から30年以上前のことですが、この件の後も、むかで競争は全国的に実施が続き、2017年から2019年には全国で年間300件以上の骨折事故が起こっていたということです。（日本スポーツ振興センターのデータを産業技術総合研究所が分析したもの。NHK報道より）

むかで競争以外にも、2015年には、大阪府の公立中学校の運動会において、本番中に高さ6メートルの10段ピラミッドが崩落する事故が起きました。幸いにも腕の骨折で済んだとは、冗談でも言えません。

ピラミッドや組体操も、重大な事故が、長年にわたって複数回生じている種目です。

こうした状況を鑑み、2016年にスポーツ庁から『対応指針』が示され、それを受けて、練馬区教育委員会から同年、運動会におけるむかで競争や騎馬戦、組体操やピラミッド等について『けがの未然防止に係る通達』が出されました。

そして数年前。区内公立中学校のむかで競争練習中に、上腕骨折の事故が発生しました。上記通達を踏まえ、[ヘルメット・エルボーパッド・ニーパッド・軍手・長袖・長ズボンの着用 / 足紐は手拭いてなく、柔軟性のあるストッキング素材のもの / 段階的な練習 等]といった対策をすべて取り入れたにも関わらず、です。

むかで競争は、一度の転倒で大けがを負う可能性が高く、そして、まったく転倒しないで終えることは難しい競技です。

運動にけがは付きものです。空手、柔道、ボクシングといった格技にラグビー他の接触スポーツは当然のこと、野球、バスケットボール、バレーボールなどの球技もしかり、個人種目の陸上競技等でも当たり前に起こります。練習でも試合でも、程度の差こそあれ、裂傷、打撲、捻挫、骨折は想定内であり、当然、本人は痛い思いをし、治るまでは不自由を強いられます。それも、自分で選び、好んでやっていることなら、納得もできるでしょう。（もちろん、大けが以上のこととなると、また話は別ですが。）

しかし、運動会は、違います。

運動が得意な生徒もそうでない生徒も、好きな人もそうでない人も、全校生徒が参加して初めて成り立つ学校行事です。

だからこそ、真剣に、全力で勝負に臨み、終わった時に、皆が笑顔でいられる、そんな運動会を創りたいと考えます。

そのためには、けがをしない、させないことは、もっとも大切な要件となります。

開四中生全員にとって、安全で、楽しく、有意義な活動とすることを念頭に、今年も種目についてはよく吟味した上で、決定してまいります。

生徒も、保護者も、地域の方も、教職員も、全員が笑顔で振り返ることのできる第65回運動会を、皆で創り上げていきましょう。

より高く、より広い開四中生の成長のために、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。